

★学校教育目標		◎自分の力で考える子 ◎思いやりのある子 ○力いっぱいやりとおす子 ○じょうぶなからだをつくる子		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）		◎自ら学び、自ら課題を見付け、課題に向かって多様な考えをもち、解決することができる子 ○挨拶や言葉遣いを大切に、友達と認め合い、助け合える子 ◎明るく元気に活動し、最後までやり遂げようとする子 ○健康・安全に気を付け、めあてをもって生活する子 ◎みんなで対話し、つくりあげていく学校 ○安全・安心な学校 ○明るく楽しく笑顔あふれる学校 ○互いに切磋琢磨し、向上を目指す学校 ◎地域や保護者に愛される学校		「まいにち笑顔みんなが笑顔」をキャッチフレーズに、「自分から考え動く、みんなで対話をしながらつくりあげる、学び合い、わくわくが広がる学校」を具現化するために、学校教育の根幹となる授業を改善し、「学び」「いのち」「健康」の教育の充実を図る。そのために、「地域」との連携を強化し、「特別支援」教育の充実と教員の「働き方」を改革する。	
【めざす児童・生徒像】		◎主体的な学習意欲を喚起する教員 ○望ましい人間関係づくりに努める教員 ○保護者の信頼・協力を得るよう努める教員			

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
学 び	個別最適な学び（自立的に学びを進める学習）と協働的な学び（学校ならではの対話を生かした学習）の一体的な充実を図る。	児童が、個別最適な学びや協働的な学びを進められるように、指導方法や教材・教員を工夫し、多様な学習活動や学習課題を取り込んだ授業改善を行う。	○すべての教員が、自己申告書に個別最適な学びと協働的な学びの充実を図るための授業改善の取組を記載する。 ○年2回の授業観察では、作成した指導案及び授業予定を全教員で共有し、相互に授業観察ができるようにする。授業後は、個別最適な学びと協働的な学びの視点で改善案を協議する。 ○校内研究では総合的な学習の時間及び生活科を中心に、年3回の研究授業を行い、地域とのかかわりをもたせた協働的な学びを行う。	3	4 「自立的な学びや対話的な学びのための授業の工夫を行っている。」教員が100% 3 「自立的な学びや対話的な学びのための授業の工夫を行っている。」教員が90%以上 2 「自立的な学びや対話的な学びのための授業の工夫を行っている。」教員が80%以上 1 「自立的な学びや対話的な学びのための授業の工夫を行っている。」教員が80%未満	4	4 「先生は、自立的な学びや対話的な学びの授業を行っている。」保護者の肯定的回答が80%以上 3 「先生は、自立的な学びや対話的な学びの授業を行っている。」保護者の肯定的回答が75%以上 2 「先生は、自立的な学びや対話的な学びの授業を行っている。」保護者の肯定的回答が70%以上 1 「先生は、自立的な学びや対話的な学びの授業を行っている。」保護者の肯定的回答が70%未満	・学校公開の授業を見せていただき、発表する力がついてきていると感じた。 ・児童の興味や関心を広げられるような教育活動を今後も継続してしてほしい。 ・多様性を受け入れる教育が行われていることを認識できた。	成果指標：3.5 ・各教員が学習指導の研修に参加したり、校内でOJ/T研修を実施したりしながら、指導力の向上に努めている。今後さらに、児童が「分かりやすい」「楽しい」といった学習意欲の向上に繋がっていきけるよう、研修を積み重ねていく。
		一人一台端末の積極的活用と、ICT機器及び情報の良き利用者としてのデジタル・シティズンシップ教育を推進する。	OGIGAスクールプロジェクトを中心にChromebookの活用を検証し、授業観察や学期に1回の研修会をおとして教職員の活用率を上げる。 ○プログラミング教育においては、企業との連携も図りながら実際にロボットや機器を動かす体験をさせ、プログラミング的思考を養う。 ○ICT機器の積極的な活用をするとともに、道徳の授業やセーフティ教室において情報モラルの涵養を図る。	3	4 「一人一台端末を活用し、児童の学習意欲を高めている。」教員が100% 3 「一人一台端末を活用し、児童の学習意欲を高めている。」教員が90%以上 2 「一人一台端末を活用し、児童の学習意欲を高めている。」教員が80%以上 1 「一人一台端末を活用し、児童の学習意欲を高めている。」教員が80%未満	4	4 「先生は、一人一台端末を活用し、児童の学習意欲を高めている。」保護者の肯定的回答80%以上 3 「先生は、一人一台端末を活用し、児童の学習意欲を高めている。」保護者の肯定的回答75%以上 2 「先生は、一人一台端末を活用し、児童の学習意欲を高めている。」保護者の肯定的回答70%以上 1 「先生は、一人一台端末を活用し、児童の学習意欲を高めている。」保護者の肯定的回答70%未満	・タブレットの利用が1年足らずの間に習熟できていることに驚いた。 ・有効に活用していると思う。 ・鉛筆での筆記が苦手な児童に対する合理的配慮やインクルーシブ教育における活用などに期待する。 ・SNSトラブルについては繰り返し指導してほしい。	成果指標：3.5 ・学習者用端末を活用する授業は日々実践しており、次第に児童の活用能力は高まってきている。デジタルシティズンシップ教育を推進し、情報モラルを身に付け、社会の変化に対応できる児童を育成していく。
いのち	児童が教育活動全般を通して、自他の「いのち」を大切に、互いの人格を尊重して認め合う態度を育てる。	挨拶や言葉遣いの指導を通して、相手を大切にすることを育て、「思いやり」の行動を起こせる児童を育てる。	○「思いやりのある子」を教育目標の重点とし、各種行事や異学年交流において人とのかかわり方を重視した指導を行う。 ○代表委員会を中心とした挨拶運動を実施し、教員も参加する。 ○挨拶や言葉遣いを指導し、相手を大切にすることを育成する。 ○「ボカボカ言葉」「くんさんづけ」「時と場に応じた受け応え」を学校全体の共通認識として指導する。 ○生活の中で正しい言葉遣いをしていく姿をほめ、相手を思いやる姿につながっていることを継続的に指導する。	3	4 「挨拶や言葉遣いの指導を通して、思いやりのある子を育てている。」教員が100% 3 「挨拶や言葉遣いの指導を通して、思いやりのある子を育てている。」教員が90%以上 2 「挨拶や言葉遣いの指導を通して、思いやりのある子を育てている。」教員が80%以上 1 「挨拶や言葉遣いの指導を通して、思いやりのある子を育てている。」教員が80%未満	3	4 「学校は、あいさつや言葉遣いの指導が適切にできている。」保護者の肯定的回答85%以上 3 「学校は、あいさつや言葉遣いの指導が適切にできている。」保護者の肯定的回答80%以上 2 「学校は、あいさつや言葉遣いの指導が適切にできている。」保護者の肯定的回答75%以上 1 「学校は、あいさつや言葉遣いの指導が適切にできている。」保護者の肯定的回答75%未満	・あいさつはコミュニケーションの第一歩だと思うので、しっかりと身に付けてほしい。思いやりの心を育む取組がされていると思う。 ・心の教育の基本は家庭にある。保護者自身も児童と共に学ぶ姿勢を見せることが大切である。	成果指標：3.3 ・挨拶や礼儀、規律は日々、様々な人（親・地域・教職員・友人など）と接し、大人が率先垂範していく姿勢が大切である。さらに「道徳などの心の教育」も人とのかかわりの中で大きく育っていくことから継続して指導をしていく。
		いじめや不登校の早期発見に努め、組織的な対応で早期の解消・解決に向けた取組をし、児童が安心して学校に来られる人間関係づくりをする。	○人権教育全体計画及び年間指導計画をもとに全学級で指導を行い、「いのち」の大切さに気付き、自分の良さ・相手の良さを見付けられる児童を育てる。 ○年3回のふれあい月間において全児童にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努めると共に、いじめ防止の教職員研修を実施する。 ○「まいにち笑顔みんなが笑顔」をキャッチフレーズに、全学年・学級経営を進めるとともに、SCによる面談やエンカウンター授業を行う。	4	4 「学級経営の中でいじめや不登校を防止する取組を指導・実践している」教員が100% 3 「学級経営の中でいじめや不登校を防止する取組を指導・実践している」教員が90%以上 2 「学級経営の中でいじめや不登校を防止する取組を指導・実践している」教員が80%以上 1 「学級経営の中でいじめや不登校を防止する取組を指導・実践している」教員が80%未満	1	4 「『まいにち笑顔みんなが笑顔』で過ごしている。」児童の肯定的回答100% 3 「『まいにち笑顔みんなが笑顔』で過ごしている。」児童の肯定的回答95%以上 2 「『まいにち笑顔みんなが笑顔』で過ごしている。」児童の肯定的回答90%以上 1 「『まいにち笑顔みんなが笑顔』で過ごしている。」児童の肯定的回答90%未満	・道徳授業地区公開講座での講演会がとても良かった。ぜひ保護者全員に聞いてほしい内容であった。 ・周囲を思いやる心については折に触れ引き続き指導をしてほしい。 ・たてわり活動を通して、効果が出ていると感じる。	成果指標：1（肯定回答80.6%） ・道徳授業地区公開講座の講演会が大変盛況であった。今後も教育活動を充実させるためにモインクルーシブをテーマにした講演や学習会を提供していきたい。 ・人との繋がりをさらに深めるために、たてわり活動を充実させていく。
健康	運動への関心を高め、体を動かす心地よさを味わい、心身ともに健康な児童を育てる。	体育の授業改善や休み時間等における運動の日常化を図ることで運動好きな児童を育てるとともに、自ら感染症等に対して予防ができる児童を育てる。	○体力テストの結果を分析し、2学期以降の体育授業に生かしていく。 ○休み時間には外で遊ぶ習慣を付けさせ、健康や体力の保持増進に努める。 ○毎月1回の体育朝会において長縄記録会を行うことを通じて、運動の日常化を図る。 ○感染症や熱中症における対応を自己判断できるよう指導する。	3	4 「ねらいを明確にした体育授業を行ったり、健康に関する指導をしている。」教員が100% 3 「ねらいを明確にした体育授業を行ったり、健康に関する指導をしている。」教員が90%以上 2 「ねらいを明確にした体育授業を行ったり、健康に関する指導をしている。」教員が80%以上 1 「ねらいを明確にした体育授業を行ったり、健康に関する指導をしている。」教員が80%未満	3	4 「子供は、運動への関心を高めたり、健康を意識して過ごしている」保護者の肯定的回答80%以上 3 「子供は、運動への関心を高めたり、健康を意識して過ごしている」保護者の肯定的回答75%以上 2 「子供は、運動への関心を高めたり、健康を意識して過ごしている」保護者の肯定的回答70%以上 1 「子供は、運動への関心を高めたり、健康を意識して過ごしている」保護者の肯定的回答70%以上未満	・体力向上は大切な取組と思う。ぜひ楽しい授業の推進をしてほしい。 ・七小体育の日や体育の集会など、とてもよい取組になっている。今後も楽しく取り組める工夫をしてほしい。 ・ケガ防止の観点から、体幹や柔軟性も必要と思う。授業内にゲーム性をもたせる動きを行うことで効果が出てくるのでは思う。	成果指標：3.1 ・七小体育の日の他、長縄集会やドッジボール大会など、児童が意欲的に運動に取り組む姿が見られる。 ・行動体力は徐々に改善がみられるが、防衛体力は改善が必要であることから、病気等に対する知識理解を習得し、生活習慣の見直しを進めていく必要がある。
		地域で学び、ともに活動することで、自らすすんで地域社会に関わろうとする態度を育てる。	○地域の人材や環境を生かした学習を展開し、ゲストティーチャーによる授業、保護者も参加する授業などを積極的に取り入れる。 ○各教科で身に付けた知識や技能を相互に関連付けながら、児童自ら調べ、体験し、創り出す活動を大切にしたい指導を行う。 ○近隣校・幼稚園・保育園との交流学習を、各学年の発達段階に応じて行う。 ○校外学習や行事等において保護者・地域の協力を要請し、児童の安全を確保する。	3	4 「学年・学級で地域に関わる活動を企画し、実施している」教員が100% 3 「学年・学級で地域に関わる活動を企画し、実施している」教員が90%以上 2 「学年・学級で地域に関わる活動を企画し、実施している」教員が80%以上 1 「学年・学級で地域に関わる活動を企画し、実施している」教員が80%未満	3	4 「学校は、外部人材を活用したり地域に関わる活動を行っている。」保護者の肯定的回答65%以上 3 「学校は、外部人材を活用したり地域に関わる活動を行っている。」保護者の肯定的回答60%以上 2 「学校は、外部人材を活用したり地域に関わる活動を行っている。」保護者の肯定的回答55%以上 1 「学校は、外部人材を活用したり地域に関わる活動を行っている。」保護者の肯定的回答55%以上未満	・育成会行事や自治会行事に多くの子供たちが参加してくれている。今後も参加者がふえていくとよい。 ・校内掲示を見て、地域との繋がりを取り入れた取組が良かった。他の地域の人との交流も深めてほしい。 ・地域の教育力は「体験」という場づくりを進めているところが多いので、今後も活動へ参加してほしい。	成果指標：3.2 ・育成会行事や地域行事に参加している児童が比較的多く、校内研究とリンクして地域を大切にしている児童の育成に繋がっていると判明したことは学習成果でもあると考える。 ・今後も体験活動を取り入れ、本物を知る・学ぶ・生かす学習をすすめていく。
特別支援	一人一人に寄り添った誰にでも分かりやすい授業を推進する。	「ひのスタンダード」に基づき、「分かる授業」を推進するため、ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善を図る。	○「焦点化し、ねらいをはっきりとつかませる」「視覚支援をする」「共有する」などの特別支援教育の視点に立ち、分かる授業を創造する。 ○ICTを活用した授業を展開し、学習課題への興味関心を高めるとともに、課題解決を通して学習意欲の向上につなげる。 ○ステップ教室・リソースルームの担当者、及び保護者との連携を密にし、指導目標を明確にすることで個に応じた指導の充実を図る。	3	4 「ICT機器の活用やUDの視点で誰にでも分かりやすい授業を工夫している。」教員が100% 3 「ICT機器の活用やUDの視点で誰にでも分かりやすい授業を工夫している。」教員が90%以上 2 「ICT機器の活用やUDの視点で誰にでも分かりやすい授業を工夫している。」教員が80%以上 1 「ICT機器の活用やUDの視点で誰にでも分かりやすい授業を工夫している。」教員が80%未満	2	4 「授業は、分かりやすくて楽しい」児童の肯定的回答95%以上 3 「授業は、分かりやすくて楽しい」児童の肯定的回答90%以上 2 「授業は、分かりやすくて楽しい」児童の肯定的回答85%以上 1 「授業は、分かりやすくて楽しい」児童の肯定的回答85%未満	・児童一人一人がもっている「なぜ」を大切に、今後も工夫をしてほしい。 ・ICTを授業に取り入れながら、一人一人の個性を生かした指導を今後も行ってほしい。 ・指導する教職員は苦勞が多く大変難しいが、個に応じた指導を継続してほしい。	成果指標：2（肯定回答85.9%） ・個に応じた指導を進めていくために、支援員の指導補助が不可欠となっている。教員の指導力の向上も必要であるが、児童一人一人を大切に指導していくためには保護者との共通理解が欠かせないことから、情報共有を大切にしていきたい。
		教職員が明るく健康に働くことで、教育活動の質的向上を図る。	教職員の年間超過勤務時間を減らすとともに、年休取得率を上げることで、ライフ・ワーク・バランスを推進する。	3	4 「ライフ・ワーク・バランスを意識し、健康に職務にあたっている。」教員が100% 3 「ライフ・ワーク・バランスを意識し、健康に職務にあたっている。」教員が90%以上 2 「ライフ・ワーク・バランスを意識し、健康に職務にあたっている。」教員が80%以上 1 「ライフ・ワーク・バランスを意識し、健康に職務にあたっている。」教員が80%未満	3	4 「学校の教育活動は、『まいにち笑顔みんなが笑顔』が感じられる。」保護者の肯定的回答95%以上 3 「学校の教育活動は、『まいにち笑顔みんなが笑顔』が感じられる。」保護者の肯定的回答90%以上 2 「学校の教育活動は、『まいにち笑顔みんなが笑顔』が感じられる。」保護者の肯定的回答85%以上 1 「学校の教育活動は、『まいにち笑顔みんなが笑顔』が感じられる。」保護者の肯定的回答85%以上未満	・教職員の働き方については社会的な問題にもなっている。家庭で指導しなくてはならないことも学校が背負っている感が否めない。 ・七小の児童にとって、楽しい学校であるためにも、地域や保護者と協働する機会を多く設けられるような活動をしていくとよい。	成果指標：3.4 ・超過勤務時間が昨年度より平均で約60分ほど短くなった。今後、さらなる働き方の改善のために、一部教科担任制・学年保護者会・校務分掌組織の見直しなど、働き方についての策を講じていく。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。